海洋状況表示システム（海しる）概要

○海洋調査成果等の関係機関が保有する海洋情報について、利用者の利便性の観点から、MDA 関係府省庁連絡会議を通じて、「海しる」を通じたデータ連携におけるポリシーの検討を行うとともに、同システムでデータを表示する際の利用規則やフォーマット等の技術的事項について検討を行いました。（内閣府）

○観測データの価値向上のため、自動昇降型漂流ブイのアルゴフロート、漂流フロート、係留ブイ、船舶による観測等を組み合わせ、統合的な海洋の観測網を構築しています。また、ブイ、船舶、衛星等により得られた観測データを収集、同化し、波浪、水温、海流等の解析を実施するとともに、得られた解析値を数値予報モデルの初期値として活用しました。（文部科学省、国土交通省）

○地球シミュレータ等のスーパーコンピュータを活用し、気候モデル等の開発を通じて気候変動の予測技術等を高度化することによって、地球規模の環境変動が我が国に及ぼす影響を把握するための研究開発を行ったほか、気候変動によって生じた多様なリスクの管理に必要となる基盤的情報を創出しました。（文部科学省）

○気象庁は、気候変動、海況等の実態把握や予測精度向上のため、数値予報モデルの高度化に取り組みました。気象庁ウェブサイトの「海洋の健康診断表[39]」で海況、海洋酸性化、波浪、潮汐等の幅広い海洋情報を公開しています。（国土交通省）

○海上保安庁では、政府関係機関が保有する海洋に関する情報の概要、入手方法等をインターネット上で一括して検索できる「海洋情報クリアリングハウス（マリンページ）[40]」を運用しています。平成 31 年（2019 年）1 月～令和元年（2019 年）

39 「海洋の健康診断表（気象庁）」 https://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/shindan/index.html
40 「海洋情報クリアリングハウス（マリンページ）」 https://www.mich.go.jp/